

# ボーリング柱状図

## 調査名

ボーリングNO.																				
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

## 事業・工事名

シートNO.

ボーリング名	B-7(1号沢左岸袖部)		調査位置			北緯	36° 50' 56.4900"				
発注機関	栃木県 大田原土木事務所				調査期間	2009-07-22 ~ 2009-07-23		東経	140° 11' 55.5000"		
調査業者名					主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者			
孔口標高	318.76 m	角度			地盤勾配	水平 0°	使用機種	試錐機		ハンマー	落下用具
総掘進長	7.00 m						エンジン			ポンプ	

標尺 (m)	層厚 (m)	深 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m)	標準貫入試験					原位置試験	試料採取	室内試験	掘進月日	
											深 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	試験名および結果	深 (m)					試験番号
1	1.20	1.20		表土 (SF)	暗褐色		中位	表面20cm間は有機質シルト。以深、礫混り砂質シルトとなる。土は含水・粘性共に中位で軟らかい。礫は 5-20mmの角礫を主体に最大 40mm程を混入する。稀に未腐植物を認める。		1.15	2	2	2	6						
2	1.20	2.40		礫混り粘土 (CH-G)	暗茶		硬い	全体に火山灰質を呈し、やや硬い。GL-1.2~2.2m間、含水・粘性共にやや低く、砂分を含有する。礫は 5-20mmの貝岩片を主体に最大 50mm程を混入し、局所的にはコア長9cm(推定 250-300mm程)の岩塊を認める。		1.45	2	2	2	30						
3	1.20	3.60			暗茶褐色		非常に硬い	GL-3m付近、礫分の混入が目立つ。		2.15	2	4	3	9						
4	1.20	4.80			暗茶		中位	GL-3.4m以深、粘性を増す。		2.45	2	4	3	30						
5	1.20	6.00			暗茶		硬い			3.15	4	7	7	18						
6	0.65	6.65		強風化岩 (WR)	暗黒灰			風化が岩芯にまで及び、コアは外周に粘土化を伴う棒状形で採取され、内部は細かい層理が多発しており、網目状の細片礫で構成される。		3.45	3	2	3	30						
7	0.65	7.30		頁岩 (Sh)	暗灰			概ね新鮮な感じである。コアは長さ10-20cmの棒状を主体に層理の多発部では角礫状で採取される。局所で斜状亀裂が見られるが、開口性のもは無く、密着性亀裂による。		4.15	3	2	3	8						
	1.00	8.30								4.45	5	4	7	13						
	1.00	9.30								5.15	50	0	50	0					07/22	
	1.00	10.30								5.45	50	0	50	0						
	1.00	11.30								6.00	50	0	50	0						
	1.00	12.30								6.00	50	0	50	0						
	1.00	13.30								7.00	50	0	50	0						
	1.00	14.30								7.00	50	0	50	0						